

PAT-NO: JP403258590A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 03258590 A

TITLE: OPTICAL INFORMATION RECORDING MEDIUM AND ITS
MANUFACTURE AND OPTICAL INFORMATION RECORDING

PUBN-DATE: November 18, 1991

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

AKAHIRA, NOBUO

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

MATSUSHITA ELECTRIC IND CO LTD

COUNTRY

N/A

APPL-NO: JP02057170

APPL-DATE: March 8, 1990

INT-CL (IPC): B41M005/26, G11B007/00 , G11B007/24 , G11B007/26

US-CL-CURRENT: 428/411.1, 428/913 , 428/938

ABSTRACT:

PURPOSE: To ensure that a highly sensitive optical recording medium is obtained by providing a constitution in which a thin recording film layer generates optically detectable change due to a mutual reaction caused by the heat generation and temperature increase of two different materials in a mixed state or a laminated state under the projection of a laser beam, on a substrate.

CONSTITUTION: In an optical information recording medium where a thin recording film layer 2 which causes an optically sensible change at least upon projection of a laser beam is provided on a substrate 1, the fine

recording

film layer 2 consists of a mixture or a laminated product of two materials,

which react with each other, if their temperature is increased due to heat

generated by projection of a laser beam, resulting in a thermal reaction.

Under this constitution, if the thin recording film layer 2 is thermally caused

to increase its temperature by irradiating a medium with a laser beam, a

thermal reaction occurs to generate a larger heat energy than an energy charged

by projection of a laser beam. Therefore, it is possible to record data by

allowing even a small optical power of laser beam to change the condition.

COPYRIGHT: (C)1991,JPO&Japio

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑩ 特許出願公開

⑪ 公開特許公報(A) 平3-258590

⑫ Int. Cl.⁵

識別記号

庁内整理番号

⑬ 公開 平成3年(1991)11月18日

B 41 M 5/26
G 11 B 7/00
7/24
7/26K 7520-5D
B 7215-5D
7215-5D
8305-2H

B 41 M 5/26

W

審査請求 未請求 請求項の数 6 (全9頁)

⑭ 発明の名称 光学的情報記録媒体およびその製造方法および光学的情報記録方法

⑮ 特 願 平2-57170

⑯ 出 願 平2(1990)3月8日

⑰ 発 明 者 赤 平 信 夫 大阪府門真市大字門真1008番地 松下電器産業株式会社内
⑱ 出 願 人 松下電器産業株式会社 大阪府門真市大字門真1008番地
⑲ 代 理 人 弁理士 小 銀 治 明 外2名

明 細 書

1. 発明の名称

光学的情報記録媒体およびその製造方法および
光学的情報記録方法

2. 特許請求の範囲

(1) 基材上に、少なくともレーザー光照射により
光学的に検知し得る変化を生じる記録薄膜層を
設けた光学的情報記録媒体であって、記録薄膜層が異なる2つの材料の混合物あるいは
複層物からなり2つの材料はレーザー光照射に
より発熱昇温をせると互いに反応しその反応が発
熱反応であることを特徴とする光学的情報記録媒
体、(2) 基材上に、少なくともレーザー光照射によ
り光学的に検知し得る変化を生じる記録薄膜層を
設けた光学的情報記録媒体であって、記録薄膜層が少なくとも1種の金属と少なくと
も1種の酸化物との混合物からなり、前記金属を
酸化してできる酸化物の標準生成エネルギーが前
記酸化物の標準生成エネルギーよりも小さいこと

を特徴とする光学的情報記録媒体、

(3) 基材上に、金属とその金属を酸化してでき
る酸化物の標準生成エネルギーよりも標準生成エ
ネルギーが高い酸化物をそれぞれ別の蒸発源から
基材上に真空蒸着することを特徴とする光学的情
報記録媒体の製造方法、(4) 基材上に、金属とその金属を酸化してでき
る酸化物の標準生成エネルギーよりも標準生成エ
ネルギーが高い酸化物をそれぞれ別のターゲット
から基材上にスパッタ成膜することを特徴とする
光学的情報記録媒体の製造方法、(5) 基材を回転させることを特徴とする請求項
3または4に記載の光学的情報記録媒体の製造方
法、(6) 基材上に記録薄膜層を設けた光学的情報記
録媒体にレーザー光照射によって光学的に検知し
得る変化を生じさせる光学的情報記録方法であっ
て、金属と酸化物の混合物からなり、前記金属を酸
化してできる酸化物の標準生成エネルギーが前記

特開平 3-258590(2)

酸化物の構造生成エネルギーよりも低い記録薄膜層を、レーザー光をレンズにより収束して照射することによって発熱昇温させ、前記金属で前記酸化物を還元して光学的に検知しうる変化を生じせしめることを特徴とする光学的情報記録方法。

3. 発明の詳細な説明

産業上の利用分野

本発明は、光・熱等を用いて高密度に情報を記録再生する光学的情報記録媒体に関するものである。

従来の技術

レーザー光をレンズ系によって収束させると直径がその光の波長のオーダーの小さな光スポットを作ることができる。したがって小さい出力の光源からでも単位面積あたりのエネルギー密度の高い光スポットを作ることが可能である。したがって物質の微少な領域を酸化させることが可能であり、またその酸化領域の変化を読み出すことも可能である。これを情報の記録・再生に利用したものが光学的情報記録媒体である。以下、「光記録

媒体」あるいは単に「媒体」と記述する。

光記録媒体の基本的な構造は膜面が平坦な基材上にレーザー光スポットを照射によって何らかの状態が変化する記録薄膜層を設けたものである。信号の記録・再生は以下のような方法を用いる。すなわち、平膜状の媒体を例えばモーター等による回転手段や並進手段により移動させ、この媒体の記録薄膜面上にレーザー光を収束し照射する。この時レーザー光が記録薄膜面上に収束するように焦点合わせ（フォーカス）制御を行なうのが普通である。記録薄膜はレーザー光を吸収し昇温する。レーザー光の出力をある閾値以上に大きくすると記録薄膜の状態が変化して情報が記録される。この閾値は記録薄膜自体の特性の他に基材の熱的な特性・媒体の光スポットに対する相対速度等に依存する。記録された情報は記録時に前記閾値よりも十分低い出力のレーザー光スポットを照射し、その透過光強度、反射光強度あるいはそれらの偏光方向等何らかの光学的特性が記録部と未記録部と異なることを検出して再生する。この

-3-

+

時記録され変化した一連の状態をレーザー光が正確に追跡するようにトラッキング制御を行なうのが普通である。またあらかじめ基材上に凹凸の溝形状を形成する等なんらかのトラッキングガイドを設け、それを用いてトラッキング制御を行ないながら記録・再生を行なうことも知られている。

このような光記録媒体の応用例としてビデオ画像ファイル、文書ファイル用の光記録ディスク、コンピューター外部メモリー用（データファイル）の光記録ディスクがある。またカード状の光記録媒体も提案されている。

光記録媒体上の記録薄膜層としては、小さいレーザーパワーで状態が変化し、大きな光学的変化を示す材料および構造が望まれる。

記録薄膜層としてはBi、Teあるいはこれらを主成分とする金属薄膜、Teを含む化合物薄膜が知られている。これらはレーザー光照射により薄膜が熔融あるいは蒸発し小孔を形成する穴開け型の記録を行い、この記録部とその周辺部からの反射光あるいは透過光の位相が異なるため干渉で

行ち消しあって、あるいは回折されて検出系に至る反射光量あるいは透過光量が変化することを検出して再生を行う。このような記録材料には、Sb-Te系の材料（特公昭59-85356号公報）、Te-C系の材料（特開昭58-71105号公報）が提案されている。また有機色素系の材料も提案されている。

他に相変態型と呼ばれる、結晶構造の変化により形状の変化を伴わずに光学的な変化をする記録媒体がある。材料としてはアモルファスカルコゲン化合物薄膜、テルルおよび酸化テルルからなるTe-TeO₂を主成分とする酸化物系薄膜がある（特公昭54-3725号公報）。またTe-TeO₂-Pdを主成分とする薄膜も知られている（特開昭81-88298号公報）。これらはレーザー光照射により薄膜の損傷係数あるいは屈折率のうち少なくともいずれか1つが変化して記録を行い、この部分で透過光あるいは反射光の振幅が変化し、その結果検出系に至る透過光量あるいは反射光量が変化することを検出して信号を再生す

-5-

+

特開平 3-258590(3)

る。さらにレーザー光を吸収する層と光学特性が変化する層を積層した構成の記録媒体も提案されている(特平公1-14039号公報)。

これらとは別に再生専用型と呼ばれる光記録媒体がある。再生専用型の光記録媒体は、あらかじめ信号が凹凸ピットの形状で記録された樹脂製の複製媒体をレーザー光で再生するものである。複製媒体(レプリカ)はニッケル製の金型(スタンパー)から射出成形された樹脂基板にアルミニウム(Al)、金(Au)等の光反射層を真空蒸着して作られ、大量生産が可能である。再生専用型媒体は反射面を持っているために反射率が高く再生信号が大きくとれる。また反射光量が多いためフォーカス・トラッキング制御もかけやすい。再生専用型媒体の応用例として家庭用の光学式ビデオディスク、ディジタルオーディオディスク(CD)、さらにCDをパーソナルコンピュータのROM(read only memory)に活用したCD-ROMなどがある。

このような再生専用型の媒体と互換性のある記

録可能な媒体も提案されている。例えば、樹脂基板上に有機色素層と反射層を設けて高反射率を実現し記録した媒体が再生専用型媒体にあわせて設計された再生装置で再生が可能なる媒体が提案されている(特開平1-196318)。

発明が解決しようとする課題

以上のような光記録媒体の中で穴開け型のものは反射光量変化が大きく取れるが、きれいな穴を形成することが難しく再生時のノイズが大きい。また、密着した保護層がとれず、いわゆるエア・サンドイッチ構造といわれる複雑な中空構造をとる必要があり、製造が難しくコスト高である。

相変化型の光記録媒体は形状変化を伴わないので簡単な構造がとれ製造が容易で低コストの媒体であるが、記録膜材料の光学定数が小さいので反射率が小さい。反射率を大きくするためには光学的な設計に基づく複雑な多層構造や反射層が必要である。

さらにこれらすべての媒体に共通して言えることであるが反射率が高いと薄膜自身の光吸収が小

-7-

-8-

さくなり、記録感度の面で不利である。とくに穴開け型の金属薄膜を使う場合や相変化型の場合には記録層の熱伝導率が比較的大きいので反射率の大きい光学設計をしても感度が低下して記録に要するレーザーパワーが大きくなり過ぎて実用的ではない。

有機色素は酸化温度が低く熱伝導率も低いのでも感度であり、吸収が小さくても実用的なレーザーパワーで記録が可能であるが、光学定数が小さいので高反射率にするには別に金属反射層を設ける必要があり構造が複雑になる。また、有機色素系材料は耐候性特に紫外線照射により劣化を生ずるという課題もある。

本発明の目的は高感度な記録媒体を提供することにある。また本発明のいまいつの目的は反射率が高く、再生専用の記録媒体と再生装置での互換がとりやすく、かつ構造が簡単で耐候性のよい記録媒体を提供することにある。さらに本発明は上記の記録媒体の製造方法を提供することを目的とする。さらに本発明のいまいつの目的は上記記

録媒体への光学的な情報記録方法を提供することにある。

課題を解決するための手段

基材上に少なくとも、8つの材料の混合状態あるいは積層状態からなり2つの材料はレーザー光照射により発熱昇温させると互いに反応しその反応が発熱反応である記録層形成を設けた構成とする。

具体的には、基材上に少なくとも金属およびその金属を酸化してできる酸化物の積層生成エネルギーよりも高い酸化の標準生成エネルギーを持つ酸化物との混合状態あるいは積層状態からなる記録層を設けた構成とする。

作用

上記のような構成にすると媒体にレーザー光照射をして記録層を発熱昇温させると発熱反応をおこしてレーザー光照射より投入されたエネルギーより大きな熱エネルギーが生じるため、小さなレーザー光パワーでも状態を変化させ記録を行なうことができる。

-10-

-9-

特開平 3-258590(4)

具体的には、上記のような構成にすると媒体にレーザー光照射をして記録層を加熱昇温させると酸化物が金属によって還元される。それに伴って光学定数が変化するため還元された部分は光学的に検知可能である。また上記の構成では還元反応は発熱反応であるのでレーザー光のエネルギーが小さくとも還元反応が始まればその周辺部も熱拡散によって還元反応が進み、大きな変化領域をうることができる。さらに、上記のような構成では金属を主成分として持っているために反射率が大きい。

実施例

第一図に本発明の1実施例の構成を示す。基材1は平版で記録層2を形成可能なものであればよいが、熱伝導率が小さいもの、透明なものが好ましく、ガラス・樹脂等の平板が使える。また、基材後面にトラッキングガイド用の溝等の凹凸形状があってもよい。石英ガラス、ソーダガラス、ほうけい酸ガラス、ポリカーボネート樹脂、ポリメチルメタクリレート樹脂、エポキシ樹脂、オ

レフィン系樹脂等の平板が使える。

基材1上に記録層2を設ける。記録層2は金属3と酸化物4との混合物からなっている。金属3を酸化してできる酸化物の標準生成エネルギーは酸化物4の標準生成エネルギーより低いレベルのものを選ぶ。この混合物を加熱昇温すると金属3により酸化物4が還元され金属3の酸化物と酸化物4の還元物に変化する。この還元反応は上記のエネルギーレベルの大小関係では発熱反応である。

表1述にいくつかの代表的な酸化物の標準生成エネルギーの値を示す。金属1として例えばAl、Fe、Mnなどが使える。これらの酸化物Al₂O₃、Fe₂O₃、Mn₂O₃の標準生成エネルギーはいずれも-1000 kJ/mol以下と小さい。これに対して酸化物4として相対的に標準生成エネルギーレベルの高いBi₂O₃、Cu₂O、In₂O₃、MoO₃、PbO、TeO₂などが使える。相対的に酸化物の生成エネルギーが高い酸化物と相対的に酸化物の生成エネルギーが低い酸化物を形

-11-

-12-

成する金属の組み合わせであればどのような組み合わせでもよい。例えば金属3にAl、酸化物4にTeO₂を選んだ場合この混合物を加熱昇温すると



の還元発熱反応をおこす。この結果光学定数が変化する。

(以下余白)

表1表 酸化物の標準生成エネルギー

化学便覧(丸形)改定3版より

酸化物	標準生成エネルギー (kJ/mol)
Al ₂ O ₃	-1675.3
Bi ₂ O ₃	-573.9
Cu ₂ O	-169
Fe ₂ O ₃	-1118
In ₂ O ₃	-625.2
Mn ₂ O ₃	-1288
MoO ₃	-745.1
PbO	-277
TeO ₂	-922.6

両者の混合形態は第1図には金属3中に酸化物4が分散している状態を示しているが、逆に酸化物4中に金属3が分散していてもよい。また還元反応をおこすには両者が接触していればよく、第

-13-

-14-

特開平 3-258590(5)

2図のように両者がそれぞれ層状に積層した状態でもよい。また両者の総面積を大きくするため第3図のように多層に積層した状態でもよい。この場合基材に接する層が金属3であるか酸化物4であるかは任意である。

金属および酸化物はそれぞれ1種類である必要はなく複数の混合物であってもよい。その場合はその複数の金属あるいは酸化物のうちの少なくとも1対の金属と酸化物の組み合わせが上記の条件を満たしてその量が還元反応により光学的に検知しうる変化を生ずるのに十分あればよい。

また図には示していないが、光学的な効率の向上や熱的な条件の制御のために絶縁誘電体層や金属反射層を基材と記録薄膜層の間や記録薄膜層の上に設けることも任意である。さらに機械的な保護のために密着層で記録膜の上を被覆してもよい。

次に本発明の記録薄膜層の製法について説明する。通常光記録媒体の記録層としての金属や酸化物は真空蒸着法やスパッタリング法を用いて製

成するが、しかし本発明のような還元反応をおこす金属と酸化物を混合して成膜する場合はあらかじめ両者を混合した蒸着源を用いて真空蒸着を行なうと成膜時に昇温して還元反応をおこしてしまい所望の記録薄膜を作ることができない。この問題は、それぞれの金属および酸化物を別の蒸着源から同時に基板上に真空蒸着することによって解決することができる。スパッタリングによる成膜の場合も同様に金属および酸化物をそれぞれ別のターゲットから同時に基材上にスパッタ成膜することにより所望の記録薄膜を得ることができる。この場合基材を回転させることにより記録薄膜中の金属および酸化物の組成比や混合状態がおよび膜厚を均一にすることが可能である。

それぞれ複数の金属および酸化物を用いる場合にもこの方法で成膜することができる。その場合、酸化物のみを1つの蒸着源あるいはターゲットを用い、金属のみをいま1つの蒸着源あるいはターゲットを用いて成膜することもできるし、さらに複数の蒸着源あるいはターゲットを用いる多元成

-15-

-16-

成法を用いてもよい。

また第2図や第3図に示すような積層状態で両者を接触させる場合も金属および酸化物をそれぞれ別の蒸着源あるいはターゲットを用いて逐次に基板上に成膜することにより形成することができる。この場合も基材をそれぞれの蒸着源の上を回転させることにより逐次にそれぞれの層の均一な層形成をすることも可能である。

次に本発明の光記録媒体への記録方法を説明する。第4図に示すようにレーザー光をレンズにより記録薄膜上に収束させる。レーザー光の出力を十分大きくすると記録薄膜が発熱昇温して反応をおこすことができる。波長 λ の光を開口数NAのレンズで収束させると半値幅 $0.66\lambda/NA$ の直径のスポットになる。波長 800nm のレーザー光NA0.5のレンズを用いると直径約 $1\mu\text{m}$ のスポットが実現できる。仮に 10mW のパワーを照射すると $10\text{kW}/\text{mm}^2$ の大きなパワー密度が得られる。このような光を記録薄膜上に照射すれば記録薄膜はその吸収率や熱定数に依存するが局部

的に発熱して数 100°C でないし 1000°C で近くの高温に達する。上記のような関係の酸化物の還元生成エネルギーを持つ金属と酸化物の混合物あるいは積層物をこのような高温状態にすると還元反応が始まりさらに発熱して還元反応が加速される。このようにレーザー光をレンズ系により収束して基材上の記録薄膜に照射して発熱昇温させることにより還元反応をおこして光学的に検知しうる変化を生ぜしめて記録をすることができる。

実施例1

基材に厚さ 1.5mm のポリメチルメタアクリレート樹脂板を用いる。2つの電子ビーム銃をもつ電子ビーム蒸着装置を用いて、基材のホルダーを毎分 120rpm の回転数で回転させながら、この基材上に金属Alと酸化物 TaO_5 をそれぞれ別の蒸着源から真空蒸着で堆積する。それぞれの蒸着源からの蒸着レートを制御することにより任意の組成比の混合物として記録薄膜を形成できる。その比でAl40%、 TaO_5 10%の組成比を持つ混合材料を膜厚 50nm 形成した。この

-17-

-18-

特開平 3-258590(6)

サンプルを波長 330 nm で測定したところ、基
材面からの反射率が約 70%、透過率が 1% 未満
すなわち吸収率が約 30% あった。このサンプル
に静止状態で波長 880 nm の半導体レーザー光
を開口数 0.5 のレンズ系で照射して基材側から
照射したところ入射レーザーパワー 15 mW、パ
ルス幅 100 ns のパルス照射により状態が変化
することが確認された。

この記録媒体を有機溶剤を用いポリカーボネ
ート樹脂基材を溶解して耐熱・高効率の透過電子顕
微鏡で観察したところ、レーザー光照射により変
化した部分に $A1=O$ の結晶構造が見出され $A1$
が $T=O$ を還元して $A1=O$ になっていることが
確認された。

実施例 2

基材に厚さ 1.2 mm、直径 12.0 mm のポリ
カーボネート樹脂板に径 0.7 μm、深さ 60 nm
ピッチ 1.6 μm のガイドトラックをスパイ
ラル状に形成した円盤を用いる。この基材の上に
実施例 1 と同様の製造方法を用いてモル比で $A1$

90%、 $T=O=10\%$ の組成比を持つ混合材料
を厚さ 50 nm 形成した。

この媒体を回転させ線速度 10 m/sec の線
速度で波長 880 nm の半導体レーザー光を開口
数 0.5 のレンズ系で設けて記録媒体上に公知の
焦点合わせ方法を用いて焦点をあわせて、同時に
公知のトラッキング方法を用いてガイドトラック
上にトラッキング制御をしながら照射した。記録
媒体面上で 18 mW の出力で単一周波数 5 MHz、
変調度 50% で変調した光を照射して記録媒体を
部分的に変化させて記録を行い、1 mW の連続出
力を照射してその反射光をフォトディテクターで
検出して再生を行ったところ、再生信号振幅が観
測された。またこのようにして記録を行なった媒
体は十分な反射率があり、再生専用型の記録媒体
の再生装置で再生することが可能であった。

発明の効果

本発明によれば高効率な光記録媒体を提供でき
る。また、反射率が大きく、再生専用の記録媒体
と再生装置での互換がとりやすく、かつ構造が簡

-19-

-20-

単で耐候性のよい光記録媒体を提供することがで
きる。

4. 図面の簡単な説明

第 1 図は本発明の 1 実施例の構成を示す断面模
式図、第 2 図および第 3 図は本発明の他の実施例
の構成を示す断面模式図、第 4 図は本発明の記録
方法の実施例を説明する模式図である。

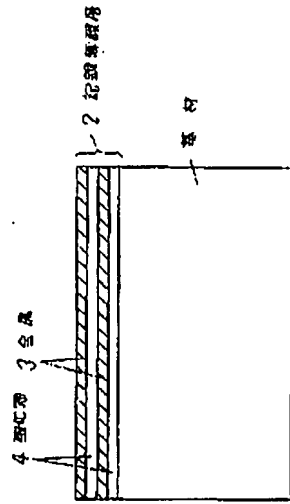
- | | |
|-----------------|-------------------|
| 1 基材 | 2 記録媒体層 |
| 3 金属 | 4 酸化膜 |
| 5 レンズ | 6 レーザー光 |

代理人の氏名 弁理士 渡野田孝 ほか 1 名

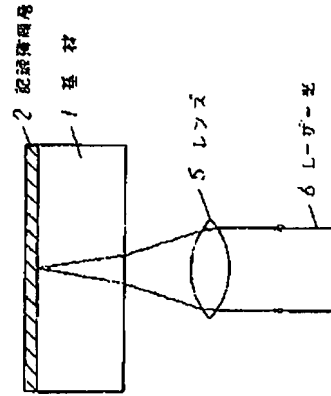
-21-

特開平 3-258590(7)

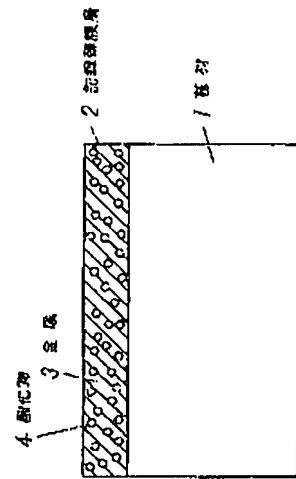
第 3 图



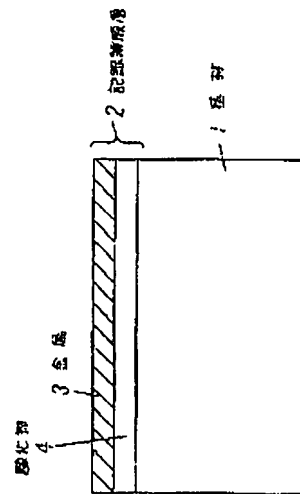
第 4 图



第 1 图



第 2 图



特開平 3-258590(8)

手 続 行 方 式 審 査

平成 3 年 2 月 1 日

特 許 庁 長 官 殿

1 事件の表示

平成 2 年 特 許 願 第 57170 号

2 発明の名称

光学的情報記録媒体およびその製造方法および
光学的情報記録方法

3 補正をする者

事件との関係 特 許 出 願 人
住 所 大阪府門真市大字門真 1006番地
名 称 (582) 松下電器産業株式会社
代 表 者 谷 井 昭 雄

4 代理人 千 571

住 所 大阪府門真市大字門真 1006番地
松下電器産業株式会社内
氏 名 (7241) 弁理士 小堀 尚 明
(ほか 2 名)
[通称先 電話(東京)434-0471]

5 補正の対象

明細書の特許請求の範囲の箇
明細書の発明の名称な説明の箇

方 式 審 査



生成エンタルピーは生成熱ともいいある化合物
がその成分元素の標準状態から作られる時の反応熱を
いう。通常は 1 mol あたりの量で表わす。特に
1 気圧における生成エンタルピーを標準生成エン
タルピーあるいは標準生成熱という。酸化物の場
合標準生成エンタルピーはマイナスの量でありこ
の絶対値が大きい程すなわちレベルが低いほど酸
化しやすい。」と補正します。

(8)明細書の第 13 頁第 3 行目の「酸化物を用いて
真空蒸着」を「蒸着層を用いる真空蒸着」と補正
します。

(7)明細書の第 17 頁第 18 行目の「10 kW / m
m²」を「10 kW / m m²」と補正します。

B. 補正の内容

(1)明細書の特許請求の範囲を明細書の通り補正しま
す。

(2)明細書の第 8 頁第 5 行目の「特開平 1-199
318」を「特開平 2-132056」と補正し
ます。

(3)明細書の第 10 頁第 10 行目から第 11 行目、
第 10 頁第 11 行目、第 12 頁第 4 行目から第 5
行目、第 12 頁第 5 行目、第 12 頁第 11 行目か
ら第 12 行目、第 12 頁第 14 行目、第 12 頁第
18 行目から第 17 行目、第 14 頁第 1 行目およ
び第 14 頁の第 1 表右欄上段の「標準生成エン
タルピー」を「標準生成エンタルピー」と補正します。

(4)明細書の第 12 頁第 19 行目および第 12 頁第
20 行目の「生成エンタルピー」を「生成エンタル
ピー」と補正します。

(5)明細書の第 12 頁第 11 行目の

「である。」を

「である。」

-2-

2. 特許請求の範囲

(1)基材上に、少なくともレーザー光照射によ
り光学的に検知し得る変化を生じる記録層膜を
設けた光学的情報記録媒体であって、

記録層膜が異なる 2 つの材料の混合物あるいは
複層物からなり 2 つの材料はレーザー光照射に
より発熱発振させると互いに反応しその反応が発
熱反応であることを特徴とする光学的情報記録媒
体。

(2)基材上に、少なくともレーザー光照射によ
り光学的に検知し得る変化を生じる記録層膜を
設けた光学的情報記録媒体であって、

記録層膜が少なくとも 1 種の金属と少なくと
も 1 種の酸化物との混合物からなり、前記金属を
酸化して得る酸化物の標準生成エンタルピーが
前記酸化物の標準生成エンタルピーよりも小さい
ことを特徴とする光学的情報記録媒体。

(3)基材上に、金属とその金属を酸化して得
る酸化物の標準生成エンタルピーよりも標準生成
エンタルピーが高い酸化物をそれぞれ別の蒸着

特開平 3-258590(9)

しせしめることを特徴とする光学的情報記録方法。

から基材上に真空蒸着することを特徴とする光学的情報記録媒体の製造方法。

(4) 基材上に、金属とその金属を酸化したものである酸化物の標準生成エンタルピーよりも標準生成エンタルピーが高い酸化物をそれぞれ別のターゲットから基材上にスパッタ成膜することを持徴とする光学的情報記録媒体の製造方法。

(5) 基材を回転させることを特徴とする請求項3または4に記載の光学的情報記録媒体の製造方法。

(6) 基材上に記録層膜層を設けた光学的情報記録媒体にレーザー光照射によって光学的に検知し得る変化を生じさせる光学的情報記録方法であって、

金属と酸化物の混合物からなり、前記金属を酸化したものである酸化物の標準生成エンタルピーが前記酸化物の標準生成エンタルピーよりも低い記録層膜層を、レーザー光をレンズにより収束して照射することによって発熱昇温させ、前記金属で前記酸化物を還元して光学的に検知しうる変化を生

特開平3-258590

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第2部門第4区分
 【発行日】平成6年(1994)9月27日

【公開番号】特開平3-258590
 【公開日】平成3年(1991)11月18日
 【年道号数】公開特許公報3-2586
 【出願番号】特願平2-57170
 【国際特許分類第5版】

B41N 5/26
 G11B 7/00 K 7522-5D
 7/24 B 7215-5D
 7/26 7215-5D

【F1】

B41N 5/26 W 8305-2H

手続補正書

平成6年9月7日

特許庁長官殿

- 1 出願の表示 平成2年特許明第57170号
- 2 発明の名称 光学的情報記録媒体およびその製造方法および光学的情報記録方法
- 3 補正をする者
 出願人の名称 特許庁長官殿
 住 所 大阪府門真市大字門真1006番地
 名 義 (542) 松下電器産業株式会社
 代 表 者 西 下 邦 一
- 4 代理人 〒571
 住 所 大阪府門真市大字門真1006番地
 氏 名 松下電器産業株式会社内
 (542) 森田士 小 島 裕 明
 (ほか2名)
 【連絡先 電話 02-2424-9471 知的財産センター】
- 5 補正により追加する請求項の紐 0
- 6 補正の記載 図1の発明の範囲を明記する
 明記の発明の範囲を明記する

7 補正の内容

- (1) 図1の発明の範囲を明記する。
 (2) 図1の発明の範囲を明記する。
 (3) 図1の発明の範囲を明記する。
 (4) 図1の発明の範囲を明記する。

特開平3-258590

2、特許請求の範囲

- (1) 基板上に、少なくともレーザ光照射による光学的に検知し得る変化を生じる記録層構造を設けた光学情報記録媒体であって、記録層構造が少なくとも1組の会聚と少なくとも1種の難化物との混合物からなり、前記会聚を難化して得る難化物の相生成エンタルピーが同記難化物の相生成エンタルピーよりも小さいことを特徴とする光学情報記録媒体。
- (2) 基板上に、会聚とその会聚を難化して得る難化物の相生成エンタルピーよりも相生成エンタルピーが高い難化物をそれぞれ別の層構造から順次上に積層することによって形成とする光学情報記録媒体の製造方法。
- (3) 基板上に、会聚とその会聚を難化して得る難化物の相生成エンタルピーよりも相生成エンタルピーが高い難化物をそれぞれ別のターゲットから基板上にスパッタ成膜することを特徴とする光学情報記録媒体の製造方法。
- (4) 材料を回転させることを特徴とする回転速度の制御係数がないし固定値に設定した光学情報記録媒体の製造方法。
- (5) 基板上に記録層構造を設けた光学情報記録媒体にレーザ光照射によって光学的に検知し得る変化を生じさせる光学情報記録方法であって、会聚と難化物の混合物からなり、前記会聚を難化して得る難化物の相生成エンタルピーが同記難化物の相生成エンタルピーよりも低い記録層構造を、レーザー光をレンズにより収束して照射することによって加熱昇温させ、前記会聚で前記難化物を還元して発光時に検知しうる変化を生じせしめることを特徴とする光学情報記録方法。